

# 大谷教師塾 教員養成ナビゲーター

大谷大学  
教職支援センター

第127号  
2021. 3. 1

## これから求められる教員の資質・能力について

大谷大学 文学部文学科准教授 西川 幸余

みなさんが受けてきた学校教育はどのような教育でしたか。どのような力を伸ばすことができましたか。教員を志望するにあたり、これからの教育は、どのような点に注視する必要がありますか、どう変わっていくと考えますか。

日本では、これまで工業社会や情報社会に対応するために、「勉強」や「学習」に重点を置き、教育が行われてきました。学校教育の重要な役割は、仲間と共に学ぶことから、個人の能力や才能を開花させることにあるといえるでしょう。

そして今「超スマート社会」と呼ばれる Society5.0の到来に伴い、「生きる力」を育む教育を目指し、新学習指導要領に基づいて学校教育が実践されています。ひとり一人が夢や希望を持ち、これからの社会を豊かに生きていくには、学習を通じて基礎知識を習得するだけでなく、自己実現のために「学び」を人生でいかせることが重要となります。すなわち各教科で得た力が、生徒の成長と進路の選択に役立ち、将来にもつながるように、今後ますます教員の指導力が問われることとなります。

社会が変わるにつれ、学びも変化していきます。教育現場では、「ICT」活用を推進し、「GIGAスクール構想」の実現に向け取り組みが始まっています。Society5.0で求められる人材には、「新たな価値の



創造」、 「他者を思いやり、多様性を尊重」、 「持続可能な社会を志向する倫理観、価値観」が重要であると考えられています。職場では、スキルの更新に努めるだけでなく、自主的に学び続けることが一層重要となります。

この状況を鑑み、教員は「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行い、学校教育における質の高い学びの実現が期待されています。指導方法の1つに「アクティブ・ラーニング」が挙げられますが、効果的な指導に何が必要でしょうか。専門教科に対する深い知識であるのは言うまでもありません。例えば、英語教員に求められる英語力は、少なくとも英検準1級、TOEFL(iBT) 80点、TOEIC730点程度以上と示されています。

わかりやすい授業とは、教員の高い専門性にもとづいた指導上の工夫により成立します。どの生徒も「わかる」から「できる」に変わる「学びの楽しさ」に目覚める授業の仕組みづくりは、教員の専門性の向上が鍵となります。

確かな知識を持ち教壇に立つ準備ができていますか。新学習指導要領で求められる教員に必要な資質と能力について自己点検しておきましょう。



# 《こんな先生になります》

( ) 採用内定自治体・校種

## 《元気でパワフルな先生に》

教育・心理学科 石川 邦彦 (京都府・小学校)



私は、明るく元気に子どもと関わっていきたいと考える。そして、自分のチャレンジ経験を活かして子どもたちに失敗を恐れずに何事にも挑戦することの大切さを伝えていきたい。そのために、自分が積極的に何事にも挑戦する姿を大切に子どもたちと元気でパワフルに関わっていく先生になる。

これからの教員生活には多くの不安もあるが、元気とパワフルさを忘れずに日々成長していく。

## 《笑顔を忘れない先生に》

教育・心理学科 櫻井 奈代子 (京都府・小学校)



私が小学校の時の担任の先生は、とても安心できて信頼できる存在だった。子どもたちは毎日様々な思いや背景を背負って登校する。そのような子どもたち全てを最高の笑顔で迎え「先生に話したい」と思えるような信頼関係を築いていきたい。そのような安心できる環境を作ると共に、子どもたちが自分の得意なことも不得意なことも、みんなとならば頑張れるという思いを感じられるように支援していきたい。先生自身が何事にも一生懸命取り組む姿を見せて、一緒に成長していける先生になりたい。

## 《子どもに寄り添う先生に》

教育・心理学科 大東 賢悟 (京都府・小学校)



私は学校ボランティア、教育実習、SSWを通して子どもに寄り添うことの大切さを実感してきた。放課後学びの時間の確保、クラス遊びと一緒に参加する、困っている子どもの相談や悩みを聞き解決することなどがその実例である。しかし、全てに寄り添うのではなく、自力で解決できるように導き、見守ることを場合によって大切にしたい。そのために仕事のマネジメントを徹底する。

そして私はメリハリをつけて、どんな時でも子どもに寄り添う先生になる。

## 《子どもの思いや願いを大切にできる先生に》 教育・心理学科 辻 めぐみ (京都府・小学校)



私は、学校ボランティアや教育実習を通して、子どもたちがキラキラと輝いている姿をたくさん見てきた。一人ひとりが持っている可能性を見だし、その可能性をもっと広げられるようにするには、子どもたちとの毎日の関わりが重要な鍵になると考える。そのため、私は、子どもたち一人ひとりに寄り添い、子どもの思いや願いを大切にできる先生になり、毎日楽しく、安心して過ごせるようなあたたかい学級を子どもたちと一緒につくっていききたい。

## 《子どもと共に成長し続ける先生に》 教育・心理学科 山元 康平 (滋賀県・小学校)



私は子どもと共に成長できる先生になります。教育実習や学生ボランティアを通して、たくさん子どもたちと関わってきた。その中で、子どもが成長するためにはどうしたらいいかと常に思い、授業づくり、生徒指導、声かけなどをどのようにしたらいいのかを常に大切に考え続けてきた。子どもの成長は、教師の一番の願いであり、喜びだと感じる。そんな教師の喜びを感じるために、教師である私も、日々成長していくことが大切であると考え、子どもと共に成長し続けます。

## 《子どもの活躍場面を見出せる先生に》 教育・心理学科 北村 克人 (滋賀県・小学校)



子どもとの関わりの中で、得意、不得意、性格などを理解することが授業や生活面での働きかけに生きてくると学んだ。こうした深く正確な児童理解が、活躍する場面を持たせたりすることで適切な支援に繋がると考える。子どもたちに粘り強く向き合うための第一歩目となるのが児童理解であり、全ての教育活動を通して行っていく。私は児童理解を通して、子どもたちが「楽しく安心できる場所」と感じられる学級をつくりたい。そのために向上心と学び続ける意志をもって邁進していく。

## 《子どもから学び共に成長し続ける先生に》 教育・心理学科 麓 真結 (滋賀県・小学校)



教育実習でのある先生との出会いがきっかけで、4月からどんな先生になりたいかを考えることができた。その先生はもう何十年と教師をされている。しかし「教師にゴールは無い。日々勉強。」といつもおっしゃっていた。

私は現状に満足することなく子どもたちへの愛情、教師の使命感と誇りを持って仕事をされる姿に感銘を受けた。理想の先生に出会えたことに感謝の気持ちを忘れずに「子どもから学ぶ」姿勢を大切にして成長し続けたい。

## 《子どもの可能性を広げられる先生に》 教育・心理学科 山崎 夏碧 (滋賀県・小学校)

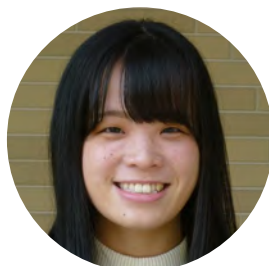


教師の使命は「子どもを守る」ことであることを教育実習、ボランティア等で感じた。子どもの現在だけでなく、将来も守るために、「今」どんな力が必要であるのか、何が課題であるのか、そのためにどんな支援・指導が必要であるのか、常に考え挑戦し続けたい。また、子どもの可能性は無限大である。変わり続けるこの時代に、子どもが個性を発揮していくことができるよう、学級づくり、授業づくり、個別の支援・指導を試行錯誤していき、子どもの可能性を広げられる先生になる。



## 《子どもの気持ちに寄り添う先生に》

教育・心理学科 吉原 みや美 (滋賀県・小学校)



私は、教育実習や学校ボランティアを通して「子どもは一人ひとり異なる思いや願いを心の内に秘めている」と実感した。普段元気な子どもであっても、実は勉強や人間関係のことで悩んでいることがある。そういった見えない気持ちに寄り添うためにも、子ども一人ひとりと関わり、信頼関係を築くことが大切であると考える。

子どものことを日々考え、認める姿勢を持って関わることを心がけ、子どもの気持ちに寄り添うことができる先生になる。

## 《子どもに分かりやすい授業のできる先生に》

教育・心理学科 小林 瑠璃 (滋賀県・小学校)



私は、児童一人ひとりが「分かった」や「できた」を実感できるような授業づくりのできる先生になりたい。教育実習を通して、分かりやすい授業をすることは、児童が積極的に授業に取り組むことができたり、学校生活が楽しく感じたりすることにつながると実感した。私は、児童一人ひとりにあった支援・指導をしていくためにも児童理解に努め教材研究に励んでいきたい。そして児童全員が「もっと学びたい」「学校に行きたい」と思えるように私自身も精一杯努力し成長し続けていきたい。

## 《自他共に大切にできる子どもを育てる先生に》

教育・心理学科 上野 心 (大阪府・小学校)



私は子どもたち一人ひとりを徹底的に大切にできる先生になりたい。人が好きで様々な人に救われてきた自分が、今度は、子どもたちにとっての支えになりたい。人には個性がある。その個性はだれにも否定できないものである。学校という集団生活を通し、誰もが自分の個性も周りの人の個性も認められるようにするために、先生として子どもたちの自己肯定感を高められるようにしたい。授業中や生活の中で、温かい声かけを行うことから、全員が過ごしやすい教室をつくれるような先生になる。

## 《子どもたちと成長できる先生に》

教育・心理学科 馬瀬 渉 (大阪府・小学校)



教員採用試験に合格できたからといって終わりではない。ここからがスタートである。教育実習を通じてたくさんのことを学んだ。先生は子どもたちに教えるだけでなく、子どもたちから教えられることもたくさんある。授業の主役が子どもたちである以上、完璧な授業など存在しない。子どもが変われば、授業も変わる。私はこれからたくさん子どもたちと出会う。出会いの数だけ学ぶことがある。だからこそ、子どもたちと成長していける先生に私はなります。

## 《子どもの成長を喜べる先生に》

文学科 道仲 祐夏 (京都府・中学校：国語)



ボランティアや教育実習を通して、様々な生徒の姿を見ることができました。みんな個性こそ違いましたが、先生から「勉強頑張ってるね」「よくできたね」と褒められると、とても嬉しそうにしていました。生徒にとって、自分の頑張りを認めてくれる存在がいるというのは、何より嬉しいことなのかもしれません。そして、日々の生徒の成長を感じられる瞬間は、教師として何よりやりがいを感じ、幸せなものとなるのではないかと思います。私は、一人ひとりの生徒に喜びを感じながら成長してほしいと思っています。そのために、私は、子どもの成長を喜べる先生を目指します。

## 《対話的精神を体現する先生に》

哲学科 山崎 星奈 (兵庫県・中学校：国語)



私は普段より、対話的精神を大切にしている。私の考える対話的精神とは、相手のことを受け入れ、相手のことを想像しながら接することだ。これは生徒にも身に付けてほしい精神である。生徒の手本になれるよう、対話的精神を体現する先生になる。また、対話的精神を身に着ける方法として、演劇を教育の現場に取り入れていきたいと考えている。高校時代に学んだ演劇を通した人間教育を、次は教育者として実践していく。

## 《生徒一人ひとりに寄り添える先生に》

科目等履修生 田中 海知 (和歌山県・中学校：英語)



3週間の教育実習を通して感じたことがあった。それは、中学生は愛らしいほどに純粋で素直な性格の持ち主であるという一方、友人関係や家族関係、進路や恋愛、部活等一人ひとり異なる様々な悩みや不安を抱えて生きているということだ。思春期や多感な時期と言われる複雑な時期を生きる彼らにとって、教師という存在がいかに大きなものであるか、考える良いきっかけとなった。少しでもそのような子どもたちの成長の支えとなれるよう一人ひとりに寄り添い、向き合える先生になりたい。

## 《子どもたちの可能性を引き出せる先生に》

教育・心理学科 村上 みか (滋賀県・小学校)



教育実習や学校ボランティアを通して子どもたちの良さは一人ひとり違うということを実感した。それに伴い、私は子どもたち一人ひとりとしっかり向き合い、良いところを褒めて伸ばしたり、苦手なことにも一緒に挑戦して「できた!」という喜びを一緒に感じていける教師になる。また、学級の中で自然と人の良いところに目を向けられるように子どもたちに働きかけ、子どもたち同士で褒め合い、高め合える学級を目指す。

## 《可能性を広げることができる先生に》 教育・心理学科 波多野 夢（大阪府・特別支援学校）



私は、特別支援学校でのボランティア活動を通して、より教師として子どもの成長を近くで見守り、支援していきたいと考えようになった。障がいのある子どもはできることが少ないと思われがちだが、できることや日々の積み重ねでできるようになることはたくさんある。そのため、私は子どもたちの日々の生活や将来に向けて、一人ひとりの可能性を広げていくことができる教師になる。

## 《子どもたちと本気で向き合える先生に》 教育・心理学科 横田 敏希（愛知県・小学校）



学校ボランティアや教育実習の経験を通して、児童理解の重要性や教師と児童の信頼関係の構築の重要性を学んできた。そのためには、教師が児童自身と本気で向き合い、今この子に何が必要なのかということを経験することが大切だということが分かった。

児童の「過去」「現在」「未来」に目を向けながら、子どもたちがなりたい姿、保護者や地域、教師が子どもたちになってほしい姿を照らし合わせながら、本気で子どもたちと向き合っていきたい。

## 《子どもの考えを大切に先生に》 教育・心理学科 山田 健輔（京都市・小学校）



私は教育実習で、授業における児童の考えの大切さを目の当たりにしました。自分が予想していなかった考えや独自の目線で考える児童との出会いを通して、30人いれば30通りの考えがあるということを改めて感じました。その考えは学級や授業をつくり上げる材料となるため、教師を含めて学級の中で大切にしていきたいと考えています。どのような考えもしっかり受け止め、児童の考えを大切にしながら、日頃の授業や学級経営を行ってまいります。

## 《子どもの強みを見つけられる先生に》 教育・心理学科 寺田 遥麗（京都市・特別支援学校）



総合支援学校のボランティアに行った際に、先生が満面の笑みで子どもと関わり全身を使って喜びを表現しているのを見た。すると、子どもの表情もみるみると明るくなっていった。先生の褒め方や接し方次第で、子どもが生き生きと過ごすことができることを学んだ。

私も子どもは「できる存在」であることを認識し、成果だけでなく、過程の頑張りも認めていきたい。そして、子どもの強みや良さをたくさん見つけ、それを褒めて伸ばすことができる先生になる。



《子ども一人ひとりを大切にする先生に》 教育・心理学科 今江 壮磨（京都府・特別支援学校）



子ども一人ひとりを大切にする先生になりたい。私は、当初、教育者ではなく支援者を目指していた。しかし、学校ボランティアの中で障がいのある子どもの笑顔や成長する姿を見て、子どもを育てていく教育者になりたいと強く思った。

子どもたちはそれぞれ得意なことや苦手なこと、興味・関心などが違っている。その違いを把握して、一人ひとりに応じた教育・支援をしたい。そして、子どもたちを「褒めること」を大切にし、小さな「できる」を積み重ね、笑顔をたくさん引き出す先生になる。

《子どもの笑顔を引き出す先生に》 教育・心理学科 梶川 優香（京都市・小学校）



私は、学校ボランティアや教育実習を通して、子どもたちが自ら積極的に学ぶ姿勢をみてきた。そういった学ぶ姿勢を支えるものが、子どもの興味・関心であるから、「知りたい!」と思う授業を工夫し、研究し続けることの重要性を学んだ。

私は、一人ひとりの子どもが学校生活を楽しいと感じ、笑顔で過ごせる学級をつくりたい。そのために、子どもの心の変化にいち早く気づき、声をかけられるような気持ちに寄り添う先生を目指す。

《子どもと全力で向き合える先生に》 教育・心理学科 小林 桃佳（京都市・小学校）



教育実習先の学校に、いつも子どもをキラキラとした目で見、常に子どもに寄り添っている先生がおられた。机間指導の際にも必ず子どもと目線を合わせ、真正面から向き合っておられた。そんな先生に私もなりたいたいと思った。授業では教材研究をしっかりを行い楽しく分かりやすい授業をすることももちろんだが、休み時間には子どもとたくさん遊び、子どもの無限に広がる可能性を様々な視点から引き出せるよう、自分自身も常に学び続け、努力していく。

《子どもたちの笑顔と自信を大切にする先生に》 教育・心理学科 池田 雅也（京都市・小学校）



私は教員として働くにあたって、子どもたちの笑顔と自信を大切にしていきたいと考えている。そのためには、まず自分が笑顔と自信を大切にすることができるよう、何事も楽しむ姿勢と研修や経験を通じた自信を身につけていく。学校生活では、子どもたちの喜びや楽しみ、達成感を共有し積み重ねていくことで笑顔と自信の大切さに気付けるような指導に励んでいきたい。

《子どもの可能性を広げられる先生に》 教育・心理学科 合内 彩夏（京都市・総合支援学校）



私は、子どもの「できる」を伸ばせるよう支援していきたい。総合支援学校に学生ボランティアで訪れた際、子どもたちは自分のできることに一生懸命取り組み、生き生きと過ごしている姿を見て心を打たれた。先生方は、子どものことを信じ、楽しく活動に取り組むことができるように笑顔で子どもたちと接しておられた。子どもの将来を見据え、すぐに手をさしのべるのではなく、現場の先生方から学んだ「待つ姿勢」を大切に子どもの可能性を広げられる先生になる。

## 教職をめざす皆さんへ

## 教職支援センター アドバイザーから

## 4年生の皆さんへ

自らの夢を大きく膨らませて、社会に歩み出そうとしている4年生の皆さん。4月から教員や講師として教職に進む人、企業や専門職に進む人など、進路は様々ですが、決めた道を力強く歩んで行ってくれることを願います。コロナ禍で先が十分に見通せない中、希望と不安が入り混じる気持ちでしょうが、まずはこの4月からの行動すべきことをイメージしながら一日一日を大切にしてください。



## 3年生の皆さんへ

教員採用試験に向けて努力を重ねている3年生の皆さん。昨年の11月～12月にかけて開催した小論文セミナーには多くの皆さんが参加して論文作成に挑みました。その熱意はアドバイザーにも伝わり、とても力強く感じました。センターではたくさんの論文題を用意しています。春休み中も継続して論文の練習に取り組みましょう。

さて、いよいよ受験の年となりました。今後は、試験までの日々をどのように過ごしていくかが、大きなポイントです。多くの自治体では6月下旬に1次試験が実施されます。自分の教育観を明確にさせながら、筆記試験対策と並行して論文や面接などの表現対策を積み重ねていきましょう。またそうした試験対策と共に自らの人間性を育む自分づくりの活動も大切です。限られた時間を有効に使って計画的に進めていってください。

教職支援センターは、皆さんの夢の実現をお手伝いします。教員採用試験に向けての支援を惜しみません。センターでは大量の情報と経験豊富なアドバイザーが皆さんを待っています。気軽にセンターを訪ねてください。



来年度の教員採用試験でもコロナ感染予防策としてマスク着用での面接試験等が実施されることも予想されます。マスク着用では、普段以上に表情豊かに滑舌よく対応することが求められます。鏡を見て練習をしたり自分の表情を録画して見たりすることも必要かもしれませんね。



## 今後の予定 《教員採用試験に向けて》

## 志願書記入説明会 — 3年生対象 —

《志願書の内容及び記入の仕方について》

いずれか一日、志望自治体別

- |    |       |                 |
|----|-------|-----------------|
| 3月 | 3日(水) | 滋賀県             |
| 3月 | 4日(木) | 大阪府・大阪市・堺市・豊能地区 |
| 3月 | 5日(金) | 京都府・京都市         |
| 3月 | 8日(月) | 上記以外の自治体        |

全日14:40～16:10

事前申し込み不要、服装自由

**志願書記入は合格に向けての第一歩**

**自分の強みをアピールする力を身につけよう!**

